

※連載番号について、記事中には「No.8」とありますが、正しくは「No.9」です。

# 日銀事務所長の あさひかわ経済 あれこれ No.8

先日、道北地域の日銀短観の12月調査結果を公表しました。企業の景況感を表す業況判断DIは12と、9カ月振りに「良い」超となりました。

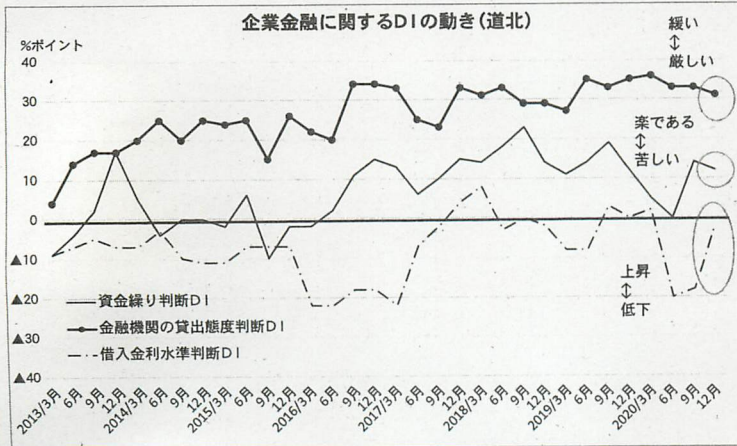
業況判断DIは、道北地域の企業に、最近の業況について、「良い」、「さほど良くない」、「悪い」の中から回答してもらい、「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いたものです。コロナ禍で3月、6月と悪化した後、9月、12月は続けて改善しましたが、まだコ

## 企業を取り巻く金融環境の変化

コロナ前の水準には戻っていません。持ち直しの動きは緩やかです。先行きは▲7と、足もとの感染症の再拡大の影響もあって、非製造業を中心に再び悪化するとの予測です。加えて、今回の短観では、11月中旬からの約1カ月間の調査期間中、早めに回答した企業も相応にあり、足もとの感染症の実態を十分に反映していない可能性がありま

すので、その点にも注意が必要です。

今回の調査で私が注目したのは、企業を取り巻く金融環境に変化の兆しがないかどうかで



資料出所：日本銀行旭川事務所

た企業の割合「苦しい」と回答した企業の割合は、6月にかけて「楽である」との回答が減った後、9月は金融機関の積極的な融資や経済活動の持ち直しにより「楽である」と回答し

てそうした回答が少し減りました。

借入金利率判断DI「上昇」と回答した企業の割合「低下」と回答した企業の割合は、6月、9月は「低下」と回答する企業が多かったのですが、12月は9月に比べて「低下」との回答がかなり減って、ゼロに近いになっています。

「楽である」との回答が増えましたが、12月はそうした回答が少減っていました。

金融機関の貸出態度判断DI「緩い」と回答した企業の割合「厳しい」と回答した企業の割合も、「緩い」との回答が多い状態が続いていますが、12月は9月に比べ

と、企業の資金繰りは、ここに至り改善のペースが一服していますが、金融機関からの借入等により、足もとは一定の資金を確保しているようにかがわれます。借入金利率は、春以降、低下傾向にあったものが、足もとは概ね横ばいで推移しているとみられます。企業を取り巻く金融環境は、全体として、緩和状態が維持されていると判断でき

ます。

もっとも、先行きは注意が必要です。企業ごと事情は異なると思いますが、経済の持ち直しのペースの鈍化が長期化し、売り上げが回復しない中で、春以降に借入された資金の返済が始まれば、資金繰りを圧迫する可能性が高まります。

政府もこうした状況懸念し、先日の閣議において、実質無利子・無担保融資の申し込み期限の延長や要件の緩和を決定したほか、日本銀行も先週の金融政策決定会合において、新型コロナウイルス対応の企業の資金繰り支援策の延長を決定しました。

米英などでは、新型コロナウイルスの接種が始まりました。ただ、製造能力の制約もあり、必要量を確保するのに相応の時間がかかるうえに、効果の持続性や副作用の有無など不明な部分も多く、日本での接種開始時期は未定です。感染症との闘いは、長期戦を強いられる可能性があります。

行政や金融機関には、企業を取り巻く金融環境をモニタリングしつつ、個別企業ごとに支援の可否を吟味し、必要な支援を切れ目なく行っていく、息の長い対応が求められるように思います。

(毎月第四週に掲載します)



【大賀健司(おがけんじ)】一九六五年神奈川県生まれ。青山学院大学法学部卒業。業務企画役、青森支店次長、政策委員会企画役、静岡支店次長を経て二〇二〇年に旭川事務所長に就任。